

構造設計一級建築士講習 修了考査問題解答例（令和元～5年度） 正誤表

① P. 355 令和5年度 法適合確認 4肢択一式 No. 2 選択肢3

(誤)

3. 記述の通り。(令第80条の3 土砂災害特別警戒区域内における居室を有する建築物の構造方法 黄色本 P203)

(正)

3. 記述の通り。(令第80条の3 土砂災害特別警戒区域内における居室を有する建築物の構造方法 黄色本 P223)

② P. 356 令和5年度 法適合確認 4肢択一式 No. 3 選択肢4に下線部を追記します。

4. 記述の通りで良い。(平成19年国交告第594号第2三 ハ 黄色本 p320 および平成12年建告第1389号第1 黄色本 p270)

③ P. 396 令和5年度 構造設計 4肢択一式 No. 7

(誤)

7	2	<p>1. 記述の通り。</p> <p>2. 混構造の場合、木造階の剛性率は0.6以上を満足する必要があるため、不 適当。(テキスト第Ⅱ編第3章1-1木質構造建築物の概要 P224)</p> <p>3. 記述の通り。</p> <p>4. 記述の通り</p>
---	---	---

(正)

7	4	<p>1. 記述の通り。</p> <p>2. 条件によって剛性率の割増しが必要な場合もあるが、平19国交告第593号に 該当すれば割増しは不要であるので、最も不適当とはいえない。(平19国交告 第593号第三号・第四号 黄色本 P427)</p> <p>3. 記述の通り。</p> <p>4. 引張側断面係数は欠込み部分を除いた断面に対する断面係数(正味断面係数) をさらに低減する必要があるため、不適当。(日本建築学会「木質構造設計規 準・同解説」 黄色本 P107)</p>
---	---	---